

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 3月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205323		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム鈴が峰		
所在地	〒731-5122 住所：広島県広島市佐伯区五日市町皆賀104番地27 電話：082-943-8888		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470205323&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 利用者個々人のお誕生日会・ 併設施設との効果的な連携

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム鈴が峰（以下、ホーム）は、広島市西部の瀬戸内海を展望できる高台にあります。法人理念である「利用者が『ここを利用してよかった』と思っただけの施設に」を基に、職員全員で「自愛に満ちた 自由で安心 笑顔あふれる 充実した毎日」というホーム独自の理念を作り、さまざまな知恵を出し合って地域へ溶け込む努力を重ねておられます。敷地内には、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、重症心身障害児施設、調理施設などがあり、複合施設の強みを活かした人員配置、人材養成も特徴の一つです。利用者の重度化が進んでいますが、「グループホームらしさとは?」「利用者本位とは?」を常に問いかけながら利用者に寄り添うケアに取り組まれています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(ユニットA)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、職員全体での共有を図ることで、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	開設当初に作成された理念を経て、職員全員がアイデアを出して「自愛に満ちた自由で安心 笑顔あふれる 充実した毎日」という理念を作られました。ミーティングにおいても、利用者本位の発言が多いなど、職員間にも理念の浸透が見られます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所の立地条件もあり、地域との付き合いという点では希薄な部分もあるが、地域の小中学生との触れ合いや、民生委員との合同料理会を通じ、交流の機会は増えてきている。	ホームは団地の中の急な坂道のうえに建っており、近隣との付き合いは当初からの課題でしたが、運営推進会議で、ホームで取り組めそうな地域交流を複数提案し、民生委員との料理会が実現しています。職員が知恵を出し合って、ホームが地域に溶け込むよう努力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症サポーター養成講座」に職員を講師として派遣した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は2ヶ月に1回のペースで開催できている。近況報告、意見交換を積極的に行っている。	会議には、毎回10人近くの家族の参加があります。会議メンバーである民生委員との合同料理会の後に会議を開催するなど、参加しやすい工夫も見られます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主として広島市五日市地域包括支援センターを媒体とし、行政との連携に努めている。	日頃の業務に関しては、市本庁や地域包括支援センターなど、内容に相応しい相談先を選択されています。また、「認知症サポーター養成講座」の講師としての派遣協力も行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフミーティング等を通じ、身体拘束ゼロの意識の共有を図っている。外部研修へも今後は積極的に参加していきたい。</p>	<p>ホームには、認知症実践者研修の修了者が6～7人程度配置されており、身体拘束における弊害を十分理解されています。また、ホームの理念に照らして、拘束しない方法をあらゆる可能性を含めて検討し、家族にも相談して、本人にとってよりよいケアを提供されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフミーティング等を通じ、高齢者虐待防止の意識の共有を図っている。外部研修へも今後は積極的に参加していきたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については学ぶ機会をそれほど持っていないが、施設内研修、外部研修を通じて、機会の確保に努めたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用開始前には、計画作成担当者及び施設相談員が詳細な説明を必ず行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>お客様相談窓口及び苦情処理委員会の設置、年に1回の顧客満足度調査を実施している。いただいた意見や要望については、リーダーミーティングやスタッフミーティングを通じ、施設運営に反映させている。</p>	<p>法人として、年1回顧客満足度調査が行われています。個別に要望があがった時には、迅速な対応を心がけ、満足度向上につなげておられます。これまでに、清掃、臭いに関する改善要望に対応されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月1回、事業所のスタッフミーティング及び施設全体のリーダーミーティングを開催し、職員との意見交換を行っている。</p>	<p>ホーム職員の意見は、スタッフ会議で取りあげられます。ホーム以外の部署にも関係する内容は、リーダー会議に提案されています。職員からは、利用者のケアに関する提案が多く寄せられています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>半期ごとに目標の設定とその評価を行い、必ず上司との面談を行っている。常にモチベーションを高く持つことができるよう、就業環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内での研修や外部研修の受講を積極的に促すとともに、資格の取得についてのサポートについても取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修を通じること以外、他法人、他事業所と関わる機会は皆無に近いが、同じ区内の事業所との交流については今後増やしていきたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者からの日々の様々な訴えや要望に対し、傾聴することを第一に心がけ、利用者個々に合わせた対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前よりご家族との話し合いを積極的に行うとともに、利用開始後については電話や文書を通じて近況報告を行っている。意見や要望については、誠意ある対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当該事業所のみならず、併設施設の情報も併せて提供することで、本人及びご家族にとってより良いサービスの選択をしていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者との共同生活を通じ友好を深め、相互に信頼し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、行事等への参加も積極的に促している。ご家族の協力のもと、利用者を共に支えていく関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人及びご家族の希望を可能な限り受け止め、馴染みの関係、その人らしさを重視した支援に努めている。	入居後も参加希望があった場合は、地元の「ふれあいいいききサロン」への参加ができるよう、職員配置を工夫されています。また、主治医についても、希望があれば入居前の主治医にかかることも支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を考慮した対応に努めているものの、他の利用者との折り合いがつかない場合や独りを好む方については、個別的な関わりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用契約終了後についても、継続的な関わりが必要である場合は、その都度相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフミーティングにて、全職員で利用者及びご家族の意向の確認、共有を行っている。必ず全体で協議し、本人に最適と思われるケアの実施に努めている。	思いや希望を把握するため、「センター方式」のアセスメント様式を活用されています。利用者が取る行動の理由を視覚化することで、職員の理解の統一が図られています。また、家族の面会時や電話連絡の際に、本人のことを教えてもらうなどの情報収集も常に行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始前の面接時において、これまでの生活歴や現在の生活環境の詳細な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	僅かな体調の変化でも見逃すことがないように、日々の観察、定時のバイタルチェックを行い、コミュニケーションも密に図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族も含め、主治医、看護師、介護職員、相談員等の他職種で協力し、介護計画を立案している。</p>	<p>特定の職員が主観で介護計画を作成しないよう、介護職、計画作成担当者、相談員等の複数の職員が計画に携わっています。</p> <p>ミーティングの機会を活用して、計画の実施状況を検討し、適切な計画となるような見直しも行われています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人のケース記録、スタッフ間の連絡帳、業務日誌を通じ、全職員での情報の共有を図り、利用者の状態に応じたサービス提供に取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当該事業所のみならず、併設施設の機能も十分に活用することで、利用者及びご家族のニーズに対して柔軟な対応を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりを支えている地域資源を把握できているとは言えない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用開始前よりご家族との話し合いを行い、希望があれば継続してかかりつけ医と関係を保つことができるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関や精神科医師が定期的に往診されています。希望する利用者は、これまでのかかりつけ医への受診も可能となっています。</p> <p>定期通院は、日頃の様子を良く知っているホーム職員が付き添われています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>特養の看護職員と連携しており、体調不良者については逐一報告を行っている。必要があれば、実際に看護師に処置をお願いしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、サマリー等を用いることで利用者の詳細な情報を医療機関へ伝えている。入院中は、事業所関係者が利用者の様子を定期的に伺い、退院後の受け入れが円滑に行うことができるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始前にある程度の意向の確認を行うとともに、グループホームの機能としての限界についても説明を行っている。利用後、重度化や終末期に向けた動きが必要と判断した場合には、主治医を交えて今後の対応方法についてご家族と話し合いの場を持つこととしている。</p>	<p>これまでに看取りをされた事例がありません。しかし、複合施設であることから、ホーム本来の役割、本人または家族の意向、本人の心身の状況を総合的に捉えた時のホームの支援のあり方について模索を続けておられます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内研修等を通じ、事故発生時や急変時の対応について知識を深めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>併設型の施設であることもあり、地域との協定を結ぶまでには至らないが、年2回の避難訓練等を通じ、災害対策の意識づけを行っている。</p>	<p>キッチンには、IH対応となっており、火元となる場所は少ないと思われます。また、避難経路の確認も、定期訓練や職員異動時等に行われています。年2回行われる定期訓練のうち、1回は夜間を想定した訓練が行われています。</p>	<p>複合施設であることから、敷地内の職員で対応可能な状態と判断できますが、今後、地元消防団とのつながりを検討し、より充実した体制とされることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけることがないように配慮するとともに、個人情報の保護にも留意している。禁句チェックシートについても活用している。	「なぜ、その言葉がいけないのか？」という具体的な事例を用いながら、計画作成担当者が人格や誇り、プライバシーを損ねない対応について話をされています。利用者の呼称については、本人が一番分かりやすい呼び方を採用されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り自己決定していただくよう、日々のコミュニケーションを密に図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースに合わせたケアを大切にし、危険が及ばない範囲で自由に生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣について、意思疎通が可能な方には全てを一任している。その他、希望があれば可能な限り、希望に沿う形を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けについては、無理のない範囲で利用者とともに作業を行っている。	複合施設の厨房で集中調理された食事が提供されています。このため、職員は、利用者に関わる時間を多く取ることができます。行事食やおやつ、毎週日曜朝の味噌汁は、利用者と職員と一緒に作っています。ドライブの時に味噌汁の具材を購入することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者個々の状態の把握に努め，施設の管理栄養士とも連携を密に図っている。急な食事形態の変更にも柔軟に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>利用者個々の状態にもよるが，可能な限り，毎食後の口腔ケアを実施している。困難な場合は，協力歯科医院に対応をお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックシート等の活用等により，利用者個々の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄に向けた取り組みは十分にできているとは言えない。</p>	<p>介護度が高い利用者が多いこともあり，ほぼ全ての利用者が職員の誘導によりトイレに行かれます。排泄のパターンを丁寧に把握することで，リハビリパンツから布パンツに移行した利用者もいるなど，自立に向けた排泄の支援が行われています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の体操やレクを通じ，便秘解消の働きかけを行っている。便秘の原因や影響については更なる理解を深めていきたい。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせた入浴を実施している。当該事業所での入浴が困難な場合は，併設事業所の入浴設備を使用し，快適に入浴していただけるよう支援している。</p>	<p>家庭での生活リズムに近い状態を心がけ，午後から夕食前にお風呂に入っておられます。浴槽は一人用で，気兼ねなく入ることができます。また，ホームのお風呂が気が進まない利用者には，併設施設であるデイサービスセンターの温泉に入ってもらうこともあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	事業所内の空間スペースを有効に活用し、利用者同士、またはご家族で過ごすことができるような空間作りを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の服用している薬について理解を深めている。誤薬、服薬忘れ等がないよう、服薬後は薬包の確認も併せて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者のこれまでの生活歴に即した趣味活動を提供するとともに、制作活動、その他の単純作業もお願いすることがある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必ずしも全ての希望に沿えるわけではないが、外出に関しては可能な限りの支援を行っている。	初詣、花見などの行事を計画的に行っておられます。ホームは3階にあるので、普段は1階のテラスまでをお決まりの散歩コースとされる利用者もいます。また、誕生日に外出することもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は非常に少ないが、外出先での買い物等を通じ、経済活動を行うことができる場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な方には自由なやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の制作物を壁に飾るとともに、空間スペースの有効活用により、家庭的な雰囲気の中にも刺激のある空間作りに努めている。	利用者が日中過ごす共用ホールからは、市内が一望できます。ソファの色を明るくしたものにして、畳コーナーを設けたり、一人になれる場所を廊下に作ったりして、快適な空間となるよう工夫されています。また、職員も環境の一つであるという考え方から、方言を交えた会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	面積の問題もあり、共用スペースで独りになれる空間の配置はできているとは言えない。気のあった利用者同士で過ごすことができるスペースについては、ユニット畳を使用した畳スペースを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用開始前からの馴染みの物品を自由に持ち込んでいただき、利用者及びご家族が心地よい居室作りを支援している。	これまで家庭で使っておられた家具や写真などを配置され、個性のある居室に整えられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者個々の理解力を把握し、その能力を最大限活かしていただけるよう努めている。		

V アウトカム項目(ユニットA)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(ユニットB)					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>事業所独自の理念を掲げ、職員全体での共有を図ることで、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>事業所の立地条件もあり、地域との付き合いという点では希薄な部分もあるが、地域の小中学生との触れ合いや、民生委員との合同料理会を通じ、交流の機会は増えてきている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>「認知症サポーター養成講座」に職員を講師として派遣した。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>今年度は2ヶ月に1回のペースで開催できている。近況報告、意見交換を積極的に行っている。</p>		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>主として広島市五日市地域包括支援センターを媒体とし、行政との連携に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフミーティング等を通じ、身体拘束ゼロの意識の共有を図っている。外部研修へも今後は積極的に参加していきたい。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフミーティング等を通じ、高齢者虐待防止の意識の共有を図っている。外部研修へも今後は積極的に参加していきたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については学ぶ機会をそれほど持っていないが、施設内研修、外部研修を通じて、機会の確保に努めたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用開始前には、計画作成担当者及び施設相談員が詳細な説明を必ず行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>お客様相談窓口及び苦情処理委員会の設置、年に1回の顧客満足度調査を実施している。いただいた意見や要望については、リーダーミーティングやスタッフミーティングを通じ、施設運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月1回、事業所のスタッフミーティング及び施設全体のリーダーミーティングを開催し、職員との意見交換を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>半期ごとに目標の設定とその評価を行い、必ず上司との面談を行っている。常にモチベーションを高く持つことができるよう、就業環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内での研修や外部研修の受講を積極的に促すとともに、資格の取得についてのサポートについても取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修を通じること以外、他法人、他事業所と関わる機会は皆無に近いが、同じ区内の事業所との交流については今後増やしていきたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者からの日々の様々な訴えや要望に対し、傾聴することを第一に心がけ、利用者個々に合わせた対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前よりご家族との話し合いを積極的に行うとともに、利用開始後については電話や文書を通じて近況報告を行っている。意見や要望については、誠意ある対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当該事業所のみならず、併設施設の情報も併せて提供することで、本人及びご家族にとってより良いサービスの選択をしていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者との共同生活を通じ友好を深め、相互に信頼し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、行事等への参加も積極的に促している。ご家族の協力のもと、利用者を共に支えていく関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人及びご家族の希望を可能な限り受け止め、馴染みの関係、その人らしさを重視した支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者同士の関係を考慮した対応に努めているものの、他の利用者との折り合いがつかない場合や独りを好む方については、個別的な関わりを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用契約終了後についても、継続的な関わりが必要である場合は、その都度相談に応じている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>スタッフミーティングにて、全職員で利用者及びご家族の意向の確認、共有を行っている。必ず全体で協議し、本人に最適と思われるケアの実施に努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>利用開始前の面接時において、これまでの生活歴や現在の生活環境の詳細な把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>僅かな体調の変化でも見逃すことがないよう、日々の観察、定時のバイタルチェックを行い、コミュニケーションも密に図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族も含め、主治医、看護師、介護職員、相談員等の他職種で協力し、介護計画を立案している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人のケース記録、スタッフ間の連絡帳、業務日誌を通じ、全職員での情報の共有を図り、利用者の状態に応じたサービス提供に取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当該事業所のみならず、併設施設の機能も十分に活用することで、利用者及びご家族のニーズに対して柔軟な対応を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりを支えている地域資源を把握できているとは言えない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用開始前よりご家族との話し合いを行い、希望があれば継続してかかりつけ医と関係を保つことができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>特養の看護職員と連携しており、体調不良者については逐一報告を行っている。必要があれば、実際に看護師に処置をお願いしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、サマリー等を用いることで利用者の詳細な情報を医療機関へ伝えている。入院中は、事業所関係者が利用者の様子を定期的に伺い、退院後の受け入れが円滑に行うことができるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始前のある程度の意向の確認を行うとともに、グループホームの機能としての限界についても説明を行っている。利用後、重度化や終末期に向けた動きが必要と判断した場合には、主治医を交えて今後の対応方法についてご家族と話し合いの場を持つこととしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内研修等を通じ、事故発生時や急変時の対応について知識を深めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>併設型の施設であることもあり、地域との協定を結ぶまでには至らないが、年2回の避難訓練等を通じ、災害対策の意識づけを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけないよう配慮するとともに、個人情報の保護にも留意している。禁句チェックシートについても活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り自己決定していただくよう、日々のコミュニケーションを密に図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースに合わせたケアを大切にし、危険が及ばない範囲で自由に生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣について、意思疎通が可能な方には全てを一任している。その他、希望があれば可能な限り、希望に沿う形を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けについては、無理のない範囲で利用者とともに作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者個々の状態の把握に努め，施設の管理栄養士とも連携を密に図っている。急な食事形態の変更にも柔軟に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>利用者個々の状態にもよるが，可能な限り，毎食後の口腔ケアを実施している。困難な場合は，協力歯科医院に対応をお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックシート等の活用等により，利用者個々の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄に向けた取り組みは十分にできているとは言えない。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の体操やレクを通じ，便秘解消の働きかけを行っている。便秘の原因や影響については更なる理解を深めていきたい。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせた入浴を実施している。当該事業所での入浴が困難な場合は，併設事業所の入浴設備を使用し，快適に入浴していただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	事業所内の空間スペースを有効に活用し、利用者同士、またはご家族で過ごすことができるような空間作りを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の服用している薬について理解を深めている。誤薬、服薬忘れ等がないよう、服薬後は薬包の確認も併せて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者のこれまでの生活歴に即した趣味活動を提供するとともに、制作活動、その他の単純作業もお願いすることがある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必ずしも全ての希望に沿えるわけではないが、外出に関しては可能な限りの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は非常に少ないが、外出先での買い物等を通じ、経済活動を行うことができる場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>可能な方には自由なやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者の制作物を壁に飾るとともに、空間スペースの有効活用により、家庭的な雰囲気の中にも刺激のある空間作りに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>面積の問題もあり、共用スペースで独りになれる空間の配置はできているとは言えない。気のあった利用者同士で過ごすことができるスペースについては、ユニット畳を使用した畳スペースを配置している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用開始前からの馴染みの物品を自由に持ち込んでいただき、利用者及びご家族が心地よい居室作りを支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の理解力を把握し、その能力を最大限活かしていただけるよう努めている。</p>		

V アウトカム項目(ユニットB)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム鈴が峰

作成日 平成 23年 3月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時における地元消防団との連携強化。	地元消防団と接点を持ち, 非常災害時における連携を強化する。	運営推進会議への参加を依頼し, 施設の把握, 特徴を共有していただく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。